

2013年度



「君に薦める一冊の本」

大阪工業大学図書館

2013年度も先生方より、学生の皆さんに
「是非、これは読んでもらいたい！」と思う本を推薦して頂きました。
サークルや部活動、レポート、研究やアルバイトなどで
忙しい日々の合間に、どうぞ手に取ってみてください。

『プロが教える建築のすべてがわかる本』 川口健一監修 ナツメ社

520//P 91133581 (大宮本館)

520//P 81300951 (枚方分館)

東京観光の名物となった東京スカイツリーに注目が集まるなか、今年で神戸ポートタワーが 50 周年を迎えた。当時の最新鋭の技術を採用したタワーは兵庫県南部地震に耐え、半世紀もの間、港のシンボルとして君臨し続けている。本書は建築のプロが“わかりやすい言葉”で建築のしくみを解説するとともに、超高層、ドーム、タワーなどの建設過程を貴重な写真とともに振り返っている。初学者にはもちろんのこと、大学生活でふとした時に読み返せば、建築への情熱を取り戻せる1冊である。

【建築学科 吉敷 祥一先生 推薦】

『生き方』 稲盛和夫著 サンマーク出版

159//I 10403541 (大宮本館)

159//I 98131425 (枚方分館)

日本航空の再建をなし得た筆者は、日本全国の経営者から尊敬され、その著書は中国をはじめとする諸外国でも多く読まれています。

本書は「人間は何のために生きるのか」という根本的な問いに真正面から向かい合う「哲学」を説いたものです。筆者は「考え方」を変えれば人生は 180 度変わると言います。

志を高く持って頑張り続ける諸君には、大いなる励みとして勢いを与えてくれるでしょう。また、むしろ少し行き詰って思い悩む諸君にこそ有用です。人生を生き抜くために必要なベクトル(考え方)を与えてくれます。

【空間デザイン学科 福原 和則先生 推薦】

『僕はミドリムシで世界を救うことに決めました。』 出雲充著 ダイアモンド社

473.45//I 91131399 (大宮本館) 473.45//I 98130585 (枚方分館)

先日、朝のラジオ番組で皆さんに読んで頂きたい本として紹介があり、早速本書を買って通勤電車の行き帰りに読んでいます。33歳の若さで、とてつもない夢に向かって起業する志と実行、それを支える周囲の人たちとの共存の大切さを切々と語る。色々な場面で教えられ学ぶことが多いなか、「安全圏に身を置きながら、本気で何事かに取り組むことができない。」に感銘する。君たちの将来への足掛かりになることを願って。

【電気電子システム工学科 長田 昭義先生 推薦】

遠い昔、私が大学生のころ、中東戦争の勃発により原油が高騰、いわゆるオイルショックが起こった。これを機に日本で新しいエネルギーの開発が叫ばれ、私はプラズマ・核融合研究に身を置くようになり、今でも細々とエネルギー関連の仕事に携わっている。

これがきっかけで本書と出会う。皆さんは「ミドリムシ」ってどんなムシか知っていますか。動物と植物、両方の性質をもったわずか 0.05mm の単細胞生物で、これが何と栄養・食料問題を解決、地球温暖化を防止、さらにはエネルギー問題の救世主になるというのだ。およそ 5 億年前に地球上に生まれた生命体「ミドリムシ(学名ユーグレナ)」の大量培養に世界で初めて成功し、三つの難問に立ち向かう若き起業家の波乱に満ちた物語である。

私が教育・研究を行う上で原点に立ち戻った一節を紹介しよう。ミドリムシの大量培養がすべてのカギを握っている。ミドリムシは食物連鎖の中で一番下に位置し、バクテリアや昆虫に食べられてしまうので、外敵から守らないと大量培養ができない。如何なる方法で乗り越えたか。その発想の転換が素晴らしい。それは、「ミドリムシを外敵から守る環境をつくる」のではなく、「ミドリムシ以外は生きられない環境をつくる」という発想への切り替えであった。そして、2005 年 12 月に屋外大量培養について成功した。

是非、本書を手にとって実感して頂きたい。著者出雲充氏は言う。「どんなちっぽけなものにも可能性があり、それを追い求めていけば、やがてその努力は報われる」と。今の君たちに、なにか「小さなチャレンジ」に取り組もうという気概が生まれることを願ってやまない。

【電気電子システム工学科 長田 昭義先生 推薦】

『科学者という仕事』 酒井邦嘉著 中央公論新社 (中公新書)

402//S 91060769 (大宮本館) 081//C//1843 98130465 (枚方分館)

この依頼を受けたとき、最初は自分が大学生の頃に感銘を受けた小説やエッセイの中から 1 冊を紹介しようと考えていた。しかし、多いときには月に 10 冊近く読んでいた時期もあり、1 冊となるとむずかしい。そこで、今回は最近読んだ本の中から大阪工業大学の学生にとってぜひ読んでほしい 1 冊を紹介することにする。お薦めは酒井邦嘉著『科学者という仕事』である。タイトルから著者の大学での仕事ぶりや研究内容(著者の専門は脳生理学・脳言語学で東京大学教授)を書いた本だと思うかもしれない。私も実際に手に取るまではそう考えていた。だが、本書で述べられているのは著者の科学観と研究・教育観である。このように書くと堅苦しそうと敬遠されるかもしれない。しかし各章冒頭と本文でも科学や文化に寄与した人物のエピソードや言葉が織り交ぜられ読みやすく、内容も面白い。もちろんためになる。

例えば、「ニュートンを含めて、どんな科学者もスタートが学生であることに変わりはない」(48 頁)と述べたうえで、著者が強調するのは「基礎学力」の修得と「方法や考え方を含めて、[先人を]「模倣」すること」の大切さである。指導教員や先輩を参考に研究を進めるのは、どの分野にも言えることである。しかし、それと同時に「創造のための模倣を続ける限り、科学者は学問の前では永遠に学生である」(49 頁)と言い、夏目漱石の「自己本位」を援用しながら「個に徹する」ことの必要性も説いている(76 頁)。他者の批判に謙虚に耳を傾けることは必要だが、自分の信念を貫き通さなければ研究者はつとまらない。

ほかにも「どうしたら研究者になれるか」、「科学研究の発表」のポイントやコツ、「適切な引用」の仕方などの具体的なノウハウ、さらには「研究の倫理」や「科学者の社会的貢献」まで述べられている。進路に迷っている人、研究の仕方が分からない人、研究者・技術者を本気で目指している人、どの学生にとってもお薦めの 1 冊である。

【総合人間学系教室 内田 浩明先生 推薦】

『復活への道』 富田洋著 幻冬舎メディアコンサルティング

510.94//T 91133671 (大宮本館) 510.94//T 81300949 (枚方分館)

東日本大震災では、未曾有の大災害をもたらしましたが、液状化現象に伴う地盤下の空洞化もその要因の一つです。空洞化現象による見えない地中がどのように変状・被災したか、陥没を未然に防ぐための活動を続けているのが著者の富田氏です。本書は、独自に開発した装置を用いて、地中の変状を調べ、陥没などの事故を防ぎ、インフラの安全・安心を確保する姿をドキュメントタッチで描いたものであり、減災の重要性を痛感させる。

【都市デザイン工学科 林 健治先生 推薦】

『ことばの発達謎を解く』 今井むつみ著 筑摩書房 (ちくまプリマー新書)

801.04//I 91133670 (大宮本館) 081//C//191 98131424 (枚方分館)

イギリス人の子どもはどうして英語を自由にしゃべることができるのだろうか？英語が不得意な私には、それがうらやましくてしかたがない。子どもが「自動車」など固有名詞を獲得していくのはなんとなくわかるが、動詞や形容詞、「希望」などの抽象名詞はどうやって…？この本はそのメカニズムを説き明かしていておもしろい。でも読んだからといってTOEICの点数があがるかどうかまでは責任が持てない。

【教職教室 荻野 和俊先生 推薦】

『銀河英雄伝説』 田中芳樹著 東京創元社 (創元SF文庫)

本編 (10冊)

(大宮本館 913.6//T)

(枚方分館 080//S)

1:黎明篇 91133672	6:飛翔篇 91133677	1:黎明篇 98131446	6:飛翔篇 98131451
2:野望篇 91133673	7:怒濤篇 91133678	2:野望篇 98131447	7:怒濤篇 98131452
3:雌伏篇 91133674	8:乱離篇 91133679	3:雌伏篇 98131448	8:乱離篇 98131453
4:策謀篇 91133675	9:回天篇 91133680	4:策謀篇 98131449	9:回天篇 98131454
5:風雲篇 91133676	10:落日篇 91133681	5:風雲篇 98131450	10:落日篇 98131455

外伝 (5冊)

(大宮本館 913.6//T//外)

(枚方分館 080//S)

1:星を砕く者 91133682	1:星を砕く者 98131456
2:ユリアンのイゼルローン日記 91133683	2:ユリアンのイゼルローン日記 98131457
3:千億の星、千億の光 91133684	3:千億の星、千億の光 98131458
4:螺旋迷宮(スパイラル・ラビリンス) 91133685	4:螺旋迷宮(スパイラル・ラビリンス) 98131459
5:黄金の翼 91133686	5:黄金の翼 98131460

銀河系にあるふたつの国、銀河帝国と自由惑星同盟のあいだの戦争を描いたSF小説。銀河帝国はその名のとおり皇帝が治める帝政国家、一方の自由惑星同盟は民主主義国家であり、お互いの主義を主張して戦争を行っている。しかしどちらの国も政治腐敗といった矛盾が拮抗しており、この小説はそれらに対抗する若手勢力と旧勢力との間の争いが主題となっている。

昔からある常識や価値観、そうしたものに囚われることなく物事の本質や意味を考えて行動していく、登場人物達のそうした思考や行動を通して、自ら考えて行動していく姿勢を身につけて欲しい。

【情報メディア学科 鈴木 基之先生 推薦】

『就活のパカヤロー』

石渡嶺司・大沢仁著 光文社(光文社新書)

377.9//I 91081961 (大宮本館)

081//K//378 98131463 (枚方分館)

『就活のコノヤロー』

石渡嶺司著 光文社(光文社新書)

377.9//I 91133580 (大宮本館)

081//K//671 98131434 (枚方分館)

就活は大学生活の中での一大イベント。何をしたいのかよくわからないまま、無数のマニュアル本や噂が飛び交い、根拠不明のノウハウや伝説がまことしやかに語られる。そんな中就職活動をしなければならない人達に、是非読んで欲しい1冊。どうして現在のような就活になったのか、企業や学生、大学の本音など、就活の裏側を知ることができます。実際の就活が始まる前に表と裏をよく知り、効率的で本質を突く就職活動をしてください。

【情報メディア学科 鈴木 基之先生 推薦】

『スラムダンク勝利学』 辻秀一著 集英社インターナショナル

780.4//T 10010294 (大宮本館) 780.4//T 81300950 (枚方分館)

影響を受けた本は数多く、一冊に絞り出すことは難しいものです。しかし、私の場合、影響を受けた「漫画」となると、いくつかに限られてきます。特に、今回の推薦する一冊とも関わりが深い、「スラムダンク」は、まさに、人生のバイブルともいえるべき漫画であり、世代を超えて、読まれているシリーズかと思われます。ただし、いくら素晴らしい漫画だったとしても、単に読み進めるのみでは、得られるものも半減してしまうように思います。漫画であったとしても、「考えて読む」という作業が必要であり、考えながら読む過程において、いろいろと「学ぶ」ことがあるのではないのでしょうか。この「スラムダンク勝利学」は、漫画スラムダンクの名場面を簡易に振り返りつつ、そこから筆者が学んだこと、考えたことがシンプルにまとめられている渾身の一冊です。スポーツの素晴らしさ、努力することの大事さ、仲間の大切さ、不安に打ち勝ち挑戦していくことの重要性等いろいろなことをこの本が教えてくれるに違いありません。いわば、「スラムダンク」という漫画を題材にした、「自己啓発」のための一種の本であると考えていただければと思います。読みやすく、非常に簡単なものであるため、是非、一読いただければと思います。

【総合人間学系教室 西脇 雅人先生 推薦】

『100円のコーラを1000円で売る方法3』 永井孝尚著 中経出版

675//N//3 91133669 (大宮本館) 675//N 98131423 (枚方分館)

本書は、「100円のコーラを1000円で売る方法」シリーズの3作目です。シリーズを最初から読んでみるのも良いですが、本書だけ読んでも面白い内容となっています。本書は架空の会社であるガンジーネット・ジャパンの与田という人物が、会計ソフトを手始めに日本でビジネスを展開する物語となっています。本書のテーマは「イノベーションとリスクへの挑戦」で、イノベーション、グローバル競争、デジタル&ソーシャルマーケティング、M&Aを取り上げています。言葉だけみると難解に思えますが、登場人物の関係、与田がしかけるあっと驚く戦略など、物語はテンポ良く進み、2時間ほどで読むことができます。そして、読んだ後、イノベーション、グローバル競争、デジタル&ソーシャルマーケティング、M&Aが体感でき「イノベーションとリスクへの挑戦」が理解できています。

【大学院知的財産研究科 箱田 聖二先生 推薦】

『放浪の天才数学者エルデシュ』 ポール・ホフマン著 平石律子訳 草思社

289.3//E 10002810 (大宮本館)

289.3//E 80101262・80200275 (枚方分館)

カバン一つで世界中を放浪して数学の研究を続けた数学者エルデシュの伝記です。突然玄関に現れ、「わしの頭は営業中だ」と言って数学について語り出す、など彼の奇人エピソードがたくさん載っています。そんなエルデシュですが、数学を学ぶ人への支援を行うなど、数学そのものを愛し続けたのでした。日々の生活に追われて夢を忘れがちな我々にとって、純粹に一つのことに向き合うエルデシュの態度は必要なのかもしれません。

【一般教育科 鎌野 健先生 推薦】

『勝間和代のビジネス頭を創る7つのフレームワークカ』

勝間和代著 株式会社ディスカヴァー・トゥエンティワン

336.2//K 91133668 (大宮本館) 336.2//K 98131559 (枚方分館)

いくつものことを同時に進め、締切までにきちんと成果物を提出することを難しいと思ったことはありませんか。社会人になると、自分のたった一つの失敗でお客様の信頼を失い、そのお客様と二度と仕事ができなくなる事態につながるかもしれません。

この本には、勝間さんの「ビジネスを遂行するうえで、日常的に役立つ、他の人より一歩先を行くために必要な基礎的なものの考え方」が書かれており、もうすぐ社会人になる学生諸君の参考になると思います。

【都市デザイン工学科 山口 行一先生 推薦】

以上の図書は大宮キャンパス・枚方キャンパスともに、
図書館の「君に薦める一冊の本」コーナーに展示しています。